



今月の大槌びと

高橋 宏明さん
たかはし ひろあき
(28歳・理学療法士)

理学療法士として勤めながら、消防団、ラップ隊に所属し活動する高橋さん。仕事、ボランティア二つの面で、地域の人と強く結びついています。

消防団では自分の知らない世界を学べる

専門学校進学で町外へ出られた後、大槌へ戻ってこられたのはいつからですか？

高橋さん(以下高) 震災のあった年に、採用が決まっていたので、その年の春から大槌で勤めています。

地元で働きたいという気持ちは前からあったのですか？



高 元々ではありませんが、就職活動をする時には、地元に戻ることを考えていました。地元を離れた生活も経験しましたが、やはり知り合いいも多い大槌のほうが居心地がいいと感じています。

消防団、ラップ隊の入団はいつから？またきっかけは？

高 昨年7月に、すでに所属していた友人からの勧めで入団しました。吹奏楽をやっていたこともあり、「ラップ隊だけでも」という誘いでしたが、せっかくならぬと思い、消防団へも入団しました。

消防団の活動の良いところはどんなところですか？

高 地域のために活動するという部分でのやりがいはあると思いますし、消防団では色々な職業、年齢の方々が

一緒に活動します。自分の知らない世界のことをたくさん学ぶ事ができ、とても勉強になっています。

育ててくれた地域の人へ恩返しができれば

この町で、今後高橋さんがやりたい事、担っていく役割はなんでしょうか？

高 地域に貢献したいという思いは、元々持っていました。仕事でも、消防団でも共通することですが、小さいころから自分を育ててくれた地域の人達、特にじいちゃん、ばあちゃん達へ、恩返しができるばと思つて活動しています。そのためにも、先輩方から多くの事を学び、早く一人前と認めてもらえるよう頑張りたいです。

大槌びと クロストーク Cross talk

6月号 越田 俊喜さん
7月号 高橋 宏明さん

前号と今号の大槌びとが対談するコーナーです。様々な分野で活躍する大槌びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大槌を創っていきます。

高橋さん(以下高) 先月の広報で拝見しました。実は、私は越田さんのお店の「のしイカ」が大好きで。家が越田さんで買ってきてくれてよく食べています。

越田さん(以下越) そうなんですか？うれいんです。ありがとうございます。

高 子どもの幼稚園も一緒だと伺いました。越 そうみたいです。まだ面識は無かったです。これから色々とお願ひしますね。

越 最近ハビリのプログラムで、麻雀などのゲームを取り入れていると聞きました。私はダーツをやるんですが、手先を使ったり、歩いたり、点数を計算したり、効果的じゃないかな？

高 はい。実は勤めている施設にもあります。若い利用者さんは、楽しんでやっていますね。

越 震災前は大槌で結構ダーツが盛り上がっていたんです。高橋さんのような若い人たちに、また盛り上げてほしいですね。

高 町全体でそういう競技が流行るのは楽しそうです。消防団や職場対抗できないかな(笑)。

